

ファーストペンギン通信

第13号
発行日
令和2年9月12日(土)
発行人
八王子実践中学校
中学部長 石川敦史

令和2年9月9日2限目、全中学生が多目的ホールに集合しました。巨大な扇風機を部屋の奥と、出入口に設置し、最大風力で換気をしている中で、松野先生から実力テストについてのお話をうかがいました。

なぜテストはいやなのか

先生は「私もテストはいやです。」正直におっしゃいました。では、なぜいやなのでしょう。か。「授業を毎日受け、宿題もこなし、何となくわかっている」と思っていたのに、テストというものははっきりと点数化して現実をつきつけて来ます。

なんとなく持っていた「わかっている幻想」がぶち壊され、いっぺんに楽しくなくなります。



しかし、

これがテストの意義

自分の弱点・欠点をリアルに知らせてくれるわけです。もし建築の世界に検査がなかったら、安全な建物は出来なんでしょう。学校の世界でも同じです。もしテストがなかったら、学力がつかないままの社会人が増加します。様々な改善を経て本物の学力が生まれてくるのです。

実力テストって何？

定期考査とはどちらがうのでしょうか。実力テストは、中学3年間、高校3年間で学んだすべてが範囲になる入学試験に近いテストです。当然、学年が上がれば範囲も増えます。

自分の行きたい学校に入ろうと思ったら、これで一定以上の点数を取らねばなりません。これが現実です。

なぜテストを受けるのか？ 実力テストに備える勉強方法は？

何をすればいいのか

時間を取って、皆で考えました。ある人は、「もう一度教科書を勉強し直す」、またある人は、「勉強時間をひねり出すために、電車で勉強する」と言ってくれました。どちらも正解です。

しかし、松野先生が言われたのは、

定期考査のやり直し

でした。

定期考査を使って、先生方はその範囲の重要ポイントの理解度、定着度を手際よく計れるようにしています。

実力テストとは言え、入試ではありませんから、決まった範囲はあるのです。と言いながら、9月16日の学力推移調査の範囲表を見せてくれました。生徒の皆さんには夏休みに配信している分です。今までに定期考査でテストされたところばかりだと理解できたようです。

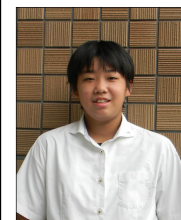
今まで受けた定期考査の範囲をもう一度勉強し、その考査を再度やってみて、できないところを復習すればいいのです。以前はできたはずなのに、今できないことはよくあります。これが実力テストへの勉強です。

定期考査ファイルに入っている問題用紙を引っ張り出し、やり直しましょう。大した時間も手間もお金もかかりません。



最後に、中学総合学力調査に関してすこし触れて、松野先生のお話しは終わりました。

ファーストペンギン通信第12号でお伝えしたとおり、去る8月31日に生徒会選挙が行われました。開票が行われ次の方々が信任され、当選しました。9月2日には新執行部（会長・副会長）が挨拶をしてくれました。早速、お二人にインタビューを行いました。その報告です。①今のお気持ちは



②新役員として今いちばんしたいことは
生徒会長：□□□□さん

① 信任されてとてもうれしいです。ですが、生徒の代表になり少し緊張しています。
② あらためて学校のためにできる事を精一杯頑張りたいです。



生徒副会長：□□□□さん

① とても嬉しく、任されたからには精一杯頑張ろうと思っています。
② 会長さんとしっかり話し合い、新生活様式を取り入れながらも出来る事を考えたいと思います。
□□は生徒名